

書道 I

教科のねらい

芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、豊かな情操を養う。

| | | |
|------|-----|------|
| 書道 I | 単位数 | 2 単位 |
|------|-----|------|

1. 学習の到達目標

| | |
|----------------|--|
| 学習の到達目標 | 1. 書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。 2. 感性を豊かにし書写能力を高める。 3. 表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。 |
| 使用教科書 副教材 等 | 書道 I (光村図書) |

2. 学習計画および評価方法

| 学期 | 学習内容 | 月 | 学習活動 |
|-------------|---|----|---|
| 第1学期 | ・オリエンテーション ①書写から書道へ ②漢字の書 ・楷書の学習 (初唐の三大家) | 4 | ・年間の授業の進め方及び学習方法を知る。 ・中学校で学習した書写の確認 (用具用材・執筆法について) |
| | | 5 | ・「九成宮醴泉銘」の鑑賞と臨書 |
| | | 6 | ・「孔子廟堂碑」の鑑賞と臨書 ・「雁塔聖教序」の鑑賞と臨書 |
| | [課題・提出物等] | | |
| 第2学期 | ③漢字の書 ・行書の学習 ④篆刻の学習 | 7 | ・「蘭亭序」の鑑賞と臨書 双鉤填墨による唐代人の追体験 |
| | | 8 | ・姓名印の制作 (字形と構成の工夫) 白文印 (姓名) 朱文印 (名前) 印套、印譜の制作 |
| | | 9 | |
| | | 10 | |
| 11 | | | |
| [課題・提出物等] | | | ・毎時間の作品と授業ノート |
| 第3学期 | ⑤仮名の書 ⑥漢字仮名交じり書の学習 | 12 | ・仮名の成立 ・用具用材・執筆法について ・平仮名・変体仮名・連綿・散らし書き |
| | | 1 | ・漢字と仮名の調和、用具用材の違いによる表現効果、作品構成などを学び、自由な表現を通して書表現する楽しさ深さを知る。 ・作品制作 (言葉の選定・構成・用具用材) |
| | | 2 | |
| [課題・提出物等] | | | ・毎時間の作品と授業ノート |

[各学期および年間の学習状況の評価方法]

上記の課題作品の制作を通じて、次の「授業を受けるにあたり（心得）」と「評価基準」とで総合的に評価する。年間を通じて定期考査は行わない。

授業を受けるにあたり（心得）

1年生は、来年度の選択によっては書道の授業が今年度限りという生徒もいます。書道に触れる機会は今後なかなかないと思われまますので精一杯作品制作に取り組んで、書道とは何かを学んでほしいと思います。来年度芸術Ⅱを選択する場合は引き続き書道の授業になります。

授業は以下のことを心がけて受けてください。

1 単位認定条件

- (1) 欠課が規定の時数を越えないこと
- (2) 作品等の制作を終了し、提出すること。原則として年度内には全作品を提出すること。

2 心がけてほしいこと

- (1) 作品はほぼ毎時間提出します。その積み重ねが評価につながります。
- (2) 授業を大切に。やむを得ない場合を除き、欠席、遅刻をしないように心がけよう。遅刻した時は、教科担当に申し出ること。また、教室移動をしたらすぐ道具の準備をしよう。
- (3) 教室や用具、作品を大切にしよう。自分の物も他人の物も。
- (4) 片付けの指示が出るまでは制作に集中しよう。携帯電話などは言語道断。私語や、席の移動は人の迷惑にもなります。
- (5) 毎時間授業ノートを書くので筆記用具を持参すること。人を頼りにしない。
- (6) わからないことは遠慮せず聞いてください。